

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの項目でA評価となり、計画した教育活動がほぼ実践できた。 学力の向上については、4年間続けてきた国語科の研究や個々の取組の成果が表れ、子ども達が自信を持って堂々と表現する姿が見られるようになった。また、他に対する優しさや思いやりの心を持つ子どもが増えてきた。自己肯定感や自己有用感については、更に高めていくような手立てをとっていく必要がある。家庭での時間の使い方、インターネットやスマートフォンの使用時間について保護者への啓蒙を含め手立てを取る必要がある。 業務改善、働き方改革は前年より前進した。地域や家庭との役割分担、会議のスリム化など、今後も、負担軽減できることはないか吟味し実践していきたい。
2 学校教育目標	ひこばえの心をもち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①確かな学力の向上及び主体的・対話的に学び、自信をもって表現する子どもの育成を図る。 ②自己肯定感や自己有用感をもち、人を思いやる豊かな心の育成及びふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 ③粘り強何事にも挑戦する児童の育成及び自他ともに命を大切にしている態度の育成を図る。 ④働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組						評価	意見や提言
●学力の向上	○自信をもって表現する子どもの育成	○「授業中に自分の思いや考えを書いたり話したりしている」と回答した児童80%以上	・授業づくりのステップ「1・2・3 vo2」を踏まえ、授業内容に応じて書く活動に取り組み。 ・書く活動の前に、必要な条件や具体的な書き方を示したり教師が作成した見本を見せたりする。							
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上。	・人権集会やほかほかの木、道徳に関するアンケートに取り組み。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施する。 ・学級活動で構成的グループエンカウンター授業に取り組み。							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「まわりの人たちが、困っている人に優しくしている」の項目で肯定的な回答をした児童90%以上。	・心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めると同時に事業発生時は迅速な対応を行う。 ・担任と児童一人一人と話す「教育相談週間」を設定し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎週木曜日の子ども支援連絡会を通し、教師間の情報共有かつ指導の統一を図る。							
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・日頃から励みになるようなコメントやご褒美などを残し、児童の意欲が上がるような手立てを取る。 ・道徳の授業で夢や目標の持つことの大切さを知り、児童一人一人が夢や目標を持つような手立てや声かけを行う。							
○生活指導の徹底	○学校評価アンケートで「あいさつ上手、片づけ上手、お話し上手」の項目で「よくてできる」と答える児童85%以上	・毎月、クラスで生活目標のふりかえりを行い、児童の意識の向上を図る。 ・全校朝会で生活の話をしたり、日々の生活の中で良い行いをしている児童を見つけて褒めたりする。								
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○ひこばえがんばりカードで就寝時刻を守ることができていると回答する児童80% ○アンケートで体力向上のために「休み時間には外に出て遊ぶ」と回答する児童80%以上 ○「健康に良い食事をしている」と回答する児童95%以上 ○「健康に良い食事をしている」と回答する児童80%以上	・ひこばえがんばりカードに各担任が必ず目を通し、必要に応じて指導する。 ・外で遊ぶことの大切さや、スポーツチャレンジの取り組みなどで体を動かすことの大切さを味合わせる。委員会の取り組みで声かけを行う。 ・栄養教諭と連携し、食育指導を各学年が年一回以上行う。							
	○健康管理及び健康習慣の定着	○学校アンケートで、健康管理のために自分で意識して手洗いや換気を行えた」と回答する児童90%以上	・感染症対策を含め、日常的に意識して行えるように、委員会や保健だより等を活用して啓発活動を行ったり、担任と養護教諭がITで保健指導を行ったりする。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に行うとともに、毎日予定ボードに必ず退勤予定時刻を明記し、実行する。 ・資料の事前配布やICTの活用により会議をスリム化し、会議の回数や時間を減らす。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定し確実に守るようにする。							
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」と答える教員90%以上 ○「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員90%以上	・ブロック主任、各教員は年間を通じて日常的に情報共有を行い、ブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ・各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性や意識が向上したと答える教員90%以上。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援連絡会等で情報共有すると同時にケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------